



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

平成30年5月

# うるわし通信

## 新しい木協会館が、まもなく竣工



5月22日の竣工にむけ建設中の桜井木材協同組合会館

桜井木材協同組合（谷奥忠嗣理事長 組合員103名）が、桜井市栗殿の『あるぼ〜る』横に建設中の新木協会館が5月22日竣工に向け、最終の追い込み工事がされている。木協は、うるわしの会の法人会員であり、新しい会館完成を前に、「通信」編集部が松田憲昌氏に新会館建設について話を伺った。

### 【新会館建設の経緯】

桜井木材協同組合は、昭和24年10月に中小企業等協同組合法に基づいて設立され、組合の地域は、桜井市、天理市、橿原市、明日香村で、製材業者、素材業者、集成材業者などで構成されている。

現在の会館は昭和45年に建設されており、新しい耐震基準に対応できていない状況なので、創立70周年を迎え、熊本地震級にも対応が出来る木造の新館建設をおこなうこととなった。今の『あるぼ〜る』は60周年事業として平成20年に阿部から移築した。

### 【新会館の概要】

建物規模は165坪で、1階に事務所・応接室・談話室等 2階には会議室や青年経営者協議会室などがあり、木協組合員の納材によって、無垢で多種の材料を使い、木材で素晴らしい建物が出来るPRの要素も兼ね備えた誇れる建物となっている。隣の『あるぼ〜る』もイベントホールとして一層の活用を目指し、共に、木材の街 桜井をPR出来る建築物としていきたいと語られた。

### 【木材業界を取り巻く状況】

1980～90年代には、全国の住宅着工戸数は年間120～170万戸で推移していたのが、2000年代に入ると、徐々に着工戸数の水準は下がり、景気が急激に悪化したリーマンショック後の2009年には、年間80万戸にまで縮小。住宅着工戸数は以前からほど遠い低水準に止まっており、年間100万戸の大台回復が難しい状況となっている。桜井の木材供給は住宅用部材が大半を占めており、それに対応した（開発・生産・流通・販売体制の再編）体制づくりが不可欠となっている。また、非住宅部門での木材活用で販路を広げることも今後の課題で、市立図書館や学校建設・金融機関への木質化による木材納での木材活用などの実績を踏まえ一層取組んでいきたい。

### 【新会館を活用した今後について】

オリンピックにむけ新国立競技場も木材を多用した建造物で、今後は木材文化の再評価がなされてくると思う。その為には様々な認証基準をクリアした納材が出来る体制づくりが求められている。人材育成を含め認証制度に対応できる研修なども課題であるし、子どもの時から木材に親しむいろいろなイベントなども進めていきたい。また、大きな駐車場も併設していることから、災害時の避難場所などにも利用いただける社会的な貢献もおこないたい。

## 石牟礼道子さんに思いを寄せて

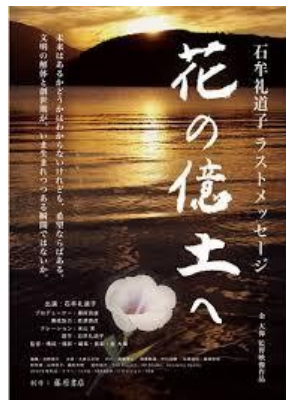
映画『花の億土へ』が、図書館で上映されるのを楽しみにしていた2月中頃、石牟礼さんの訃報に接し、私はショックと共に説明のつかない縁を感じました。その頃、私は読み終えた『苦海浄土』を通して知った水俣病についての認識が一変し、石牟礼さんの精神世界にすっかりはまってしまっていたからでした。

水俣病については、写真展や、石牟礼道子さんのドキュメントフィルムなどを通し、在職中に研修を受けていました。その時は水俣病の酷さと共に、行政や企業への憤りを感じたものの自身を顧みることもなく、今思うと自分とは直接関わりのない出来事として無意識のうちにその事から逃げていたように思います。

『苦海浄土』を読んで出会った『水俣』は私に様々なことを問い詰めてきました。何よりあの本に出てくる一人一人の水俣病患者やその家族の、なんと人として尊厳ある姿であり生き方であるのか！石牟礼さんは、その人たちの中に入り込み、自身のことの如く、無念や怨み、今まで生きてきた喜びを、なんとも優しい水俣の方言で表現して伝えてくれました。更に水俣病患者の人たちは、自分たちに対して人とも思わない対応をし続けてきた政府や窒素会社の幹部の人たちに対し「悪者」と罵りませんでした。

同じ人間として何故、自分たちのこの苦しみをわかってくれないのか、共に感じてくれないのかと、怒りではなく不思議な感覚で受け止め、やがて諦めや無念の気持ちに代わっていくのです。漁師の人達と彼らと、いったいどちらが本当の人間であるのか・・・石牟礼さんは患者の人たちのことを神様だと言いました。私はその神様たちに、どんな教えを受けたのか、彼らに何を誓うのか、問いつめられているように様々思います。

まだ私自身、何も答えは出ていないのだけれど・・・（読書会会員 N）



## 憲法カフェ 桜井で開催！

現在改憲勢力が衆参両院を圧倒支配している。国会が憲法改正案を発議し、国民投票を実施に移す日もさほど遠くはない。そのとき私たちは、現在の憲法の内容を変えるかどうかを自らの判断で決定しなければならない。

一国の憲法の将来はその国の将来を決定する。憲法を改定することは、その憲法の下で暮らす人々の生活を根本的に変える可能性をもつ。従って、安倍首相が今声高に主張する改憲の理由と目的、そしてその方向性について私たち国民の一人一人が生活者の立場に立ってクリティカルに検証することが大事になる。将来の世代に対する責任と言っていい。

こうした考えから、NPO法人コミュニケーション研究センターは、桜井市大福に開設したコミュニティ・カレッジ「知の森」を会場に毎月1回「憲法カフェ」を開催することを決めた。

憲法は私たちの日々の生活とどのような関わりをもっているのか。そもそも憲法とはいかなるものか。「憲法カフェ」は、憲法に関する私たちの素朴な疑問について、奈良県弁護士会所属の弁護士さんとともにコーヒーカップ片手に自由に意見を交換し合う「集いの場」として設けられている。これまで2回開催した。

第1回は3月10日（土）、古川雅朗弁護士に日本国憲法の構成、諸外国の憲法との比較、そして憲法と私たちの生活との関わりを示す具体的な事例として夫婦一氏強制違憲訴訟の判例について話してもらった。「手の届く憲法の話」として参加者の好評を得た。

第2回は4月21日（土）、山口宣恭弁護士に憲法前文の読み解き方について話してもらった。前文を構成する5つの段落のそれぞれの主語が「国家」ではなく「国民」であることが指摘された。日本国憲法は「国民主権」「人権尊重」「永久平和」を基本原理とするが、この指摘によって参加者は、これらの原理を支える根本理念として「個人の尊重」があることを知り、その憲法認識をあらたにした。

憲法カフェは、桜井市、橿原市、大和高田市、奈良市、宇陀市、大阪市から、第1回は26名、第2回は28名の参加者を得た。

両回とも話題提供者と参加者の質疑応答、さらに参加者同士の意見の交換が活発に行われた。次回はさらに親しく熱のこもった討議が期待される。

（寄稿：島岡 将）

憲法カフェ問合せ先 島岡 将（NPO法人コミュニケーション研究センター） TEL0744-24-2556



第1回 古川雅朗弁護士



第2回 山口宣恭弁護士





## うるわしの桜井をつくる会定時総会

●第8回定時総会を下記の通り開催させていただきます。なお、当日は総会の後公開講演会を開催しますので、多数のご参加をお待ちしています。

日 時 平成30年6月10日(日) 13時(受付12時30分)  
場 所 桜井市立図書館 第1研修室  
議 案 平成29年度事業報告 同決算報告 監査報告 役員改正  
平成30年度事業計画 同予算案

公開講演会「桜井に宮をおいた天皇 崇神天皇 雄略天王 欽明天皇 用明天皇」

講 師 千田 稔 氏(奈良県立図書情報館館長)

来年は平成に代わる新たな元号の時代が始まります。桜井に宮をおかれた天皇の人物像や時代背景、事績、時代の出来事、改元により何が変わったのか等興味深いお話が伺えそうです。



千田 稔 氏

## お知らせ

### ●図書館友の会

5月の読書会は、「アカシヤの大連」清岡卓行/著を読みます。

美しい港町、アカシヤ香る大連。そこに生れ育った彼は敗戦とともに故郷を喪失した。青春、憂鬱、愛、死。果てない郷愁を籠めて、青春の大連を清冽に描く芥川賞受賞の表題作。(Amazonカスタマーレビューより)

日 時 5月22日(火)13:30から  
場 所 コミュニティーカレッジ 知の森  
近鉄大福駅から北西へ100m  
問い合わせ先 浅川 肇 TEL:090-1961-6345  
友の会会員以外の参加も歓迎します。



### 【編集後記】

先日、山の荒廃の現状が話題になった。吾輩も花粉症で苦しんでいる者であるが、杉・檜が間伐されずに放置の状況が、木自身の生体保存のためより一層花粉を作り、花粉の飛散が増えていると、そして間伐が進むと飛散量も大幅に減少することになると言われていた。

又、植林された針葉樹は根が浅く、大雨によって山崩れや谷川を堰き止めるなど様々な災害にもつながっている一面もある。山国日本の再生をどのようにするのか、桜井発の課題かもしれない。(K)

うるわし通信発行人  
高瀬 安男  
TEL:090-1678-9157

